



## ご来校ありがとうございました

- 10月9日（日）すずかけ祭 -

晴天に恵まれた「すずかけ祭」でした。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、泣く泣く無観客での開催を決断しましたが、今年度は同居家族という制限はありましたが、ご家族の方々に見守られながら開催できたことに生徒も教職員も格別の喜びを感じております。当日は、たくさんの方々にご来校いただき、生徒たちの背中を押してくださり本当にありがとうございました。

閉祭式での各部門長の話の内容や姿にも“やり切った感”があふれていました。今回の最重点目標に据えていた「生徒も先生もお客様（家族）もすずかけ祭があつてよかった。すずかけ祭をやつてよかった」を果たすことができたと感じています。

## 後期がスタートしました

今日から後期が始まりました。3年生は、進路の扉を自らの手で切り拓く正念場を迎えます。2年生、1年生にとっても次の学年に向けて、更に力を蓄える大切な時期となります。

今年度は、前期終業式と後期始業式を合わせた「前後期切替式」という形で前期を締め後期をスタートしました。切替式で生徒に伝えた内容を紹介させていただきます。

今日から今年度の後半、後期が始まります。そのような節目に当たり、2つのことを皆さんに伝えたいと思います。

1つ目は「時間を管理できるようになってほしいということです」。

節目の今だからこそ、新しい何かを始めたり、今までやってきたことを削ったり止めたり変えたりできるチャンスです。今日1日という時間には限りがあります。スマホ、テレビやパソコンなどの情報機器やゲーム機に時間を奪われて過ごしているうちに、今日が昨日になってしまいます。なりたい自分を見つけ、なりたい自分に近づくために、1日の中に何を加え、何を削り、何を止めるのかを考え、実践してください。そして、自分が手にしている自分の時間を自分でコントロールできるようになってほしいと思います。時間をマネジメントできることが、自律につながる第一歩だと思いますし、なりたい自分に近づく確かな道になるとも考えます。

2つ目は「自分で育つということを考えてほしいということです」。

学校は人との関わりを通して様々なことを学ぶ場です。角中ではこの後も、皆さんが育つ環境を整えることに全力を注いでいきます。皆さんには、そこにただいだけで育ててもらえるという感覚から離れ、その環境の中でたくさんの方にチャレンジし行動することで自ら育つという意識をもっともっとほしいと思います。

解剖学者であり東京大学名誉教授である養老孟司氏が、次のようなことを言っていました。「自分の力で幸せを探そうとはせず、人まかせで幸せという探し物をする。本当にそこには幸せが落ちているのでしょうか?」「やることがないとか、面白くないとか言っていますか?」

世の中が面白くないですか? でも世の中は簡単には変わらないんですよ。じゃあ、どうすれば面白くなるのか? 自分が変わることです。」

たとえ失敗したりつまずいたりしても、先生たちは全力で皆さんを支えます。立ち上がり、次の一步を踏み出す方法を一緒に考えます。安心して勇気を出して挑戦を続けてください。

この後も、ご家庭と学校が両輪となって子どもたち一人一人の「育つ」を支えていきたいと思ひます。サポーターとしてお互いに助け合ひましょう。

## 生徒の多様な活動を応援します

本日、「あきた芸術劇場ミルハス」で開催されるミルハス・ミュージックフェス2022民謡版に、S.Tさん、O.Rさん、S.Yさんの3名が踊り手として出演します。

O.RさんとS.Yさんは、10月21日から「さいたま市文化センター」で開催される郷土民謡民舞全国大会、10月27日から「カルッツかわさき（川崎市スポーツ・文化センター）」で開催される民謡民舞全国大会へも出場する予定になっているそうです。二つの全国大会については、どちらも遠路強行日程となるようですが頑張ってきてほしいものです。

この後も、学校の部活動以外での本校生徒の活動や活躍の様子を学校報に掲載したいと思ひますので、生徒を通じてお知らせくだされば助かります。